
本ニュースリリースは、各金庫および各社の共同ニュースリリースです。重複して配信される場合がありますこと、ご了承お願いいたします。

2020年2月25日

埼玉縣信用金庫、東京東信用金庫、日本ユニシス 勘定系システム基盤を Windows ベースのオープン環境に移行し、稼働開始

埼玉縣信用金庫（本店：埼玉県熊谷市 理事長：橋本 義昭）、東京東信用金庫（本店：東京都墨田区 理事長：中田 清史）、および日本ユニシス株式会社（本社：東京都江東区、社長：平岡 昭良、以下 日本ユニシス）は両信用金庫の勘定系システム基盤を Windows ベースのオープン環境に移行し、日本ユニシスが提供する基盤サービスによる運営を 2020 年 1 月 4 日から開始しました。

埼玉縣信用金庫および東京東信用金庫は、日本ユニシスが提供する地域金融機関向け勘定系システムパッケージ「SBI21」を利用しており、その稼働基盤を従来のメインフレームによるシステム基盤からオープン系システム基盤への更改を実施しました。

更改の目的は以下のとおりです。

- ・オープン系システム基盤の採用と、システム基盤の一部共同化によるコスト最適化を実現
- ・システム基盤における休日機の実装（注1）による柔軟なサービス時間延長の実現
- ・オープン系システム基盤の特性を活かし、バックアップシステム高度化（注2）を実現

両金庫は、将来にわたって地域金融機関の本業分野におけるシステム企画・開発に専念するため、勘定系システム基盤の運営を従来のオンプレミス型からサービス利用型に移行しました。

埼玉縣信用金庫および東京東信用金庫は、勘定系システムのオープン系システム基盤採用で得られた効果により、サービス時間の延長、新たなサービスチャネルの拡充などの顧客サービスを実現し、地域に根差したサービスを継続します。

日本ユニシスは、両金庫をはじめとする地域金融機関に対して、新たな技術によるサービス拡充を図り、地域金融機関の発展を支援していきます。

以上

注 1：「休日機の実装」

次期勘定系システム基盤では平日機および休日機の 2 系統を設け、相互に切り替え運用を行うことで 24 時間 365 日稼働を実現した際にもメンテナンス時間を適切に確保することが可能な運用を実現します。

注 2：「バックアップシステム高度化」

データセンタは日本ユニシスが提供する本番センタ（西日本）および災対センタ（東日本）を利用し、相互のデータセンタの遠隔化を図り BCP 有効性の高度化を図るとともに、本番センタオンライン系と災対センタオンライン系のデータをほぼリアルタイムに更新することで、万一の有事における災対センタオンライン系への切り替え時間の大幅な短縮を実現します。

※記載の会社名および商品名は、各社の商標または登録商標です。

<報道関係問い合わせ窓口>

日本ユニシス株式会社 広報部

https://www.unisys.co.jp/newsrelease_contact/